

講義8 学校での防災教育

アニメーションによる 子ども向け防災教育

マフルザ・ムルダニ 津波防災研究センター

Mahruza Murdani (TDMRC)



本日の話は、どのように防災アニメーションをつくるのかという話です。この防災アニメーションはTDMRCが作成しました。目的は子どもたちにどのような災害のリスクがあるのかを伝え、災害への備えや意識を高めてもらうことです。

■ 事前リサーチから七つの段階を経て 試写を繰り返して完成

資料28-2はアニメーションをつくるプロセスです。このようなアニメーションをつくる前には、どのような話にするか考えるためのリサーチを行ないます。まず脚本をつくり、どのような人物を登場させるのかを考えます。そのあと声の録音をして、アニメーションをつくります。そのあと何回か試写会を行なって、最終的に作品として仕上げます。

脚本をつくる際には、だれがターゲットになるのか、内容はどうするのかを考えます。映像で使われる言葉も、ターゲットとなる人にわかるような言葉にします。そして最終的に原稿を仕上げます。

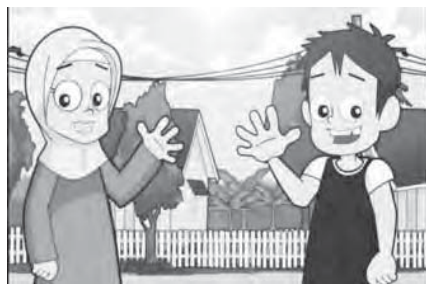
■ アニメのキャラクターには 地元の特徴が反映されるように設定

次にキャラクターを選びます。どのようなキャラクターを何人登場させるかを考えます。キャラクターには、なるべく地元の特徴が反映されるようにします。

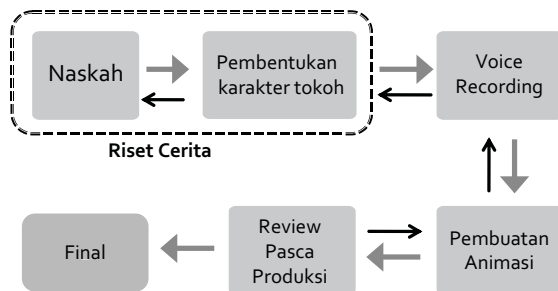
次に録音のプロセスがあります。



資料28-3 防災アニメーション試写会のようす



資料28-1 防災アニメーションのキャラクター



資料28-2 アニメーション制作プロセス

次に、どのようにしてキャラクターが動く映像をつくれるのか説明します。絵をいくつか用意して、それを組みあわせて動きを出します。そのあとで背景を追加します。『ドラえもん』なども同じような方法でつくっているはずです。次に音声と合わせます。

ドラマなどの映像作品の場合は、制作の前段階に7割の時間を費やします。一方、アニメーションでは制作の段階にたくさんの時間を要します。

資料28-3は試写会のようすです。アニメーションを使うと、知識がよりはやく理解されます。

医学部の学生がTDMRCに来たとき、防災アニメーションを見てもらうと防災についての知識がより深く理解されることがわかりました。